

研究ノート

三溪園の活用と運営の展望**—公共庭園・観光資源として機能する庭園—****Perspective of Utilization and Management of Sankeien Garden:
Garden Functioning as Public Garden and Tourist Attractions**

小野 健吉

Kenkichi Ono

和歌山大学観光学部

キーワード：三溪園、庭園、横浜、原富太郎、観光資源

Key Words : Sankeien Garden, garden, Yokohama, Tomitaro Hara, tourist attractions

Abstract :

Sankeien Garden was built in Yokohama in the early 20th century by Tomitaro Hara, a successful and wealthy businessman. It is now owned and managed by Sankeien Hoshokai Foundation, attracting nearly 500,000 visitors annually. The garden has been managed as “public garden” as well as “tourist attractions”. The aim of this paper is to investigate the measures for the further development of the two aspects of its management. The former aspect requires still more efforts to increase young visitors including elementary, junior high and high school students. As for the latter, I propose the following three functional requirements: balancing the number of visitors at all seasons, offering handy access information for tourists, and improving attractiveness of the restaurants and cafes in the garden.

I. はじめに

横浜市中区に所在する国指定名勝の三溪園は、約 17 万 5 千㎡の広大な敷地と起伏のある地形を活かしつつ古建築を移築し、見事な風景を創出した近代の自然主義風景式庭園として高く評価されている。明治時代に三溪園を造営した原富太郎は、土地は私有であっても優れた景観は万民の共有財産であるという思想を持ち、現在の外苑については当初から「遊覧御随意」の看板を掲げ一般公開を行った（図 1）。三溪園は彼のそうした思想や歴史的経緯を受け継いで現在も広く一般に公開され、横浜市民に限らず広く国内他地域や海



図 1 「遊覧御随意 三溪園」の看板を掲げた三溪園入口（明治時代の絵葉書）

外からの観光者を含め年間 50 万人近くの人々が訪れる。すなわち、三溪園は横浜市民に広く利用される公共庭園として機能するとともに、国内他地域や海外からの観光者が訪れる横浜市屈指の文化観光資源となっているわけである。本稿では、三溪園を運営する公益財団法人三溪園保勝会から入園者関係を始めた各種統計資料の提供を受け、それらを把握・分析したうえで、今後の三溪園の活用および運営の在り方について展望する。

II. 三溪園の概要

三溪園は、三溪と号した原富太郎（1868～1939。以下、「三溪」という。）が横浜本牧に造営した邸宅である。三溪は、明治中期から昭和初期にかけて生糸輸出業を基盤に横浜を拠点に活躍した実業家で、数寄者としても知られる。明治 34 年（1901）頃から、義父・原善三郎より受け継いだ本牧三之谷の地所において、古建築の移築や作庭を含む三溪園の築造に精力的に取り組み、明治 39 年には概ね完成を見た外苑部分を一般公開した。同 42 年に自らの居を三溪園に移した後も外苑の整備を進め、大正 3 年（1914）には外苑内の丘陵頂上付近に京都府加茂町（現・京都府木津川市）

の燈明寺の三重塔を移築し、三溪園全体のランドマークとした（図2）。大正4年からは私的空間としての内苑の造営に本格的に着手。池や溪流などの整備を進めるとともに、同5年には天授院、同6年には紀州藩巖出御殿の遺構と伝える臨春閣、同7年には月華殿と春草廬を園内の適所に移築。さらに、同9年には白雲邸を新築し、同11年の聴秋閣の移築（図3）を以て内苑の整備を完了している。内苑の移築建物の配置や周辺の作庭も自らの構想によるもので、その卓越した空間構成からは、絵画にも優れ、数寄者としての審美眼を磨いてきた三溪の美的感覚の高さが窺える。

内苑完成の翌年の大正12年に関東地方を襲った関東大震災では、三溪園も先代・善三郎築造の松風閣が倒壊するなどの被害を受け、さらに昭和16～20年（1941～45）の太平洋戦争でも爆撃により園内各所に被害を受けた。こうした受難を経た後、昭和28年以後、三溪園は、包含する重要文化財建造物も含め、原家から財団法人三溪園保勝会ⁱ（現在の公益財団法人三溪園保勝会。以下、「保勝会」という。）に段階的に寄贈された。三溪園の運営を担うこととなった保勝会では、傷んだ建物の修理等に取り組むとともに、外苑には昭和35年に旧矢筈原家住宅、同62年に旧燈明寺本堂の移築を行った。さらに、平成12年（2000）には、旧本宅である鶴翔閣の修復がおこなわれた。一方、内苑には、平成元年に三溪記念館が建設され、来訪者への三溪の事績の紹介や収蔵品の展示のための施設として公開されている。三溪園は、優れた近代の自然主義風景式庭園として平成19年に国の名勝に指定され、園内の建物も臨春閣など10棟は重要文化財に、鶴翔閣など3棟が横浜市指定有形文化財に指



図2 旧燈明寺三重塔（現況）



図3 聴秋閣（現況）

定されている。

Ⅲ．三溪園の入園者数・施設利用の現状等

保勝会は、年度ごとに詳細な事業報告を作成しており、また、その基礎資料としての綿密な統計資料も作成している。本章では、保勝会から提供を受けた平成27年度事業報告書及び報告書資料、並びに部分的に先行して整理された28年度統計資料等を用いながら、三溪園の利用実態の現状を取りまとめ、必要に応じ若干の解釈を付しておきたい。

1. 入園者数の推移

① 入園者数経年変化

昭和60～平成28年度の有料・無料入園者数ならびにその合計入園者数の推移を示したのが表1である。なお、入

表1 入園者数（有料・無料）の推移

年度	有料（人）	無料（人）	合計（人）	無料率（％）
昭和60	414,207	16,109	430,316	3.7
昭和61	506,970	16,541	523,511	3.2
昭和62	507,439	17,567	525,006	3.3
昭和63	488,590	19,629	508,219	3.9
平成1	497,458	19,834	517,292	3.8
平成2	543,859	19,024	562,883	3.4
平成3	618,883	29,354	648,237	4.5
平成4	564,656	29,296	593,952	4.9
平成5	558,017	32,161	590,178	5.4
平成6	533,416	36,211	569,627	6.4
平成7	519,385	42,430	561,815	7.6
平成8	538,511	47,628	586,139	8.1
平成9	457,004	44,143	501,147	8.8
平成10	464,130	44,746	508,876	8.8
平成11	452,898	52,931	505,829	10.5
平成12	459,553	60,057	519,610	11.6
平成13	448,648	61,487	510,135	12.1
平成14	387,184	59,092	446,276	13.2
平成15	406,691	72,243	478,934	15.1
平成16	351,235	61,095	412,330	14.8
平成17	366,862	68,989	435,851	15.8
平成18	410,936	83,573	494,509	16.9
平成19	375,719	75,599	451,318	16.8
平成20	394,985	86,848	481,833	18.0
平成21	372,299	97,585	469,884	20.8
平成22	321,571	83,556	405,127	20.6
平成23	271,066	77,471	348,537	22.2
平成24	315,281	98,713	413,994	23.8
平成25	288,612	91,464	380,076	24.1
平成26	314,612	107,864	422,476	25.5
平成27	330,171	112,531	442,702	25.4
平成28	340,258	134,014	474,272	28.3

平成1年度と15年度に入園料改正

平成20年度に横浜トリエンナーレ開催

平成21年度に横浜150年祭

平成22年度末（平成23.3.11）に東日本大震災

表 2 近年の有料入園者数と無料入園者数月別集計<平成 26～28 年度>

月/ 年度	有料入園者数 (人)・比率 (%)						無料入園者数 (人)・比率 (%)						総入園者数 (人)		
	平成 26		平成 27		平成 28		平成 26		平成 27		平成 28		平成 26	平成 27	平成 28
4	47,024	76.7	38,105	77.7	46,606	76.3	14,306	23.3	10,949	22.3	14,509	23.7	61,330	49,054	61,115
5	29,174	78.7	31,459	79.4	36,545	76.4	7,908	21.3	8,146	20.6	11,282	23.6	37,082	39,605	47,827
6	27,456	77.8	35,226	76.6	30,623	74.6	7,815	22.2	10,755	23.4	10,429	25.4	35,271	45,981	41,052
7	14,015	70.9	14,258	72.4	19,779	68.3	5,746	29.1	5,447	27.6	9,166	31.7	19,761	19,705	28,945
8	12,729	70.0	13,517	73.5	11,782	64.0	5,445	30.0	4,882	26.5	6,622	36.0	18,174	18,399	18,404
9	18,202	77.6	21,109	77.2	14,547	77.0	5,250	22.4	6,224	22.8	4,434	23.4	23,452	27,333	18,981
10	21,688	75.3	24,765	75.2	29,421	75.6	7,124	24.7	8,172	24.8	9,508	24.4	28,812	32,937	38,929
11	48,597	74.6	51,353	76.8	54,437	70.6	16,555	25.4	15,530	23.2	22,618	29.4	65,152	66,883	77,055
12	20,978	76.2	28,843	75.0	31,919	73.0	6,550	23.8	9,617	25.0	11,806	27.0	27,528	38,460	43,725
1	9,808	69.4	12,915	68.7	13,139	63.0	4,320	30.5	5,891	31.3	7,705	37.0	14,128	18,806	20,844
2	21,816	61.7	24,421	63.1	23,309	61.1	13,547	38.3	14,301	36.9	14,812	38.9	35,363	38,722	38,121
3	43,125	76.4	34,200	73.1	28,151	71.6	13,298	23.6	12,617	26.9	11,123	28.3	56,423	46,817	39,274
計	314,612	74.5	330,171	74.6	340,258	71.7	107,864	25.5	112,531	25.4	134,014	28.3	422,476	442,702	474,272

園料免除となる無料入園の対象となるのは、小学校就学前の幼児のほか、障害者本人及び介護者 1 名、並びに横浜市在住の 65 歳以上の高齢者である。

表 1 を見ると、昭和 61～平成 8 年度までは、昭和 63・平成 1 年度を除き、有料入園者数が 50 万人を超え、無料入園者を含めた総入園者数では昭和 61～平成 13 年度に 16 年連続で 50 万人を超えている。この間で、有料入園者数・総入園者数ともに最高値を記録したのは平成 3 年度で、それぞれ 618,883 人、648,237 人を数えた。

総入園者数で 50 万人を切った平成 14 年度以降は、有料入園者数も低迷し、平成 15・18 年度を除き 40 万人を割り込み、さらに平成 22 年度末の平成 23 年 3 月 11 日に勃発した東日本大震災の影響を受けた平成 23 年度とその翌々年の平成 25 年度には 30 万人を切る状況となった。平成 26 年度以降はやや持ち直しの傾向がみられるものの、平成 28 年度の有料入園者数は 340,258 人、総入園者数は 474,272 人にとどまっている。なお、三溪園への公共交通機関によるアクセスは横浜駅または最寄りの根岸駅からのバス利用であり、この必ずしも便利とは言えないアクセスが入園者低迷の一因かもしれないが、これは入園者数の多かった昭和 61～平成 13 年度頃も同様であり、根本的な原因とは言えないだろう。

一方で、急増しているのが無料入園者数である。無料入園者数／入園者総数ならびにその比率（無料入園者率）を見ると、昭和 61 年度は 16,541 / 523,511 で 3.2%であったが、平成 5 年度は 32,161 / 590,178 で 5.4%、平成 11 年度は 52,931 / 505,829 で 10.5%、平成 21 年度は 97,585 / 469,884 で 20.8%、平成 26 年度は 107,864 / 422,476 で 25.5%と増加の一途をたどり、平成 28 年度には 134,014 / 474,272 で 28.3%と入園者の 3 割近くを無料入園者が占める状況となっている。増加する無料入園者の多数を占めると考えられるのは

65 歳以上の横浜市在住者で、これは国民あるいは横浜市民全体の高齢化と軌を一にする現象である。無料入園者の増加は公益性を持つ施設としての三溪園にとって否定的側面ばかりを持つものではないが、有料入園者数が低迷する中で運営を担う保勝会の財務にとっては、やはり何らかの対処が求められる事象と言わざるを得ない。

② 近年の有料入園者数と無料入園者数月別集計

平成 26～28 年度の有料入園者数と無料入園者数を月別に集計したのが表 2 である。全般的に無料入園者率が高いのは、7・8 月と 1・2 月である。概ねこれらの月は有料入園者が少ない月であり、相対的に無料入園者の比率が上がっているものと見られる。このことは、季節を問わず日常的に入園する無料入園者が一定数いることを示しており、こうした無料入園者は比較的近隣に居住している 65 歳以上の横浜市在住者と考えられる。なお、7・8 月の無料入園者としては、幼稚園の夏休み等に伴い、比較的就学以前の幼児が多いことが推測される。

平成 28 年度で注目されるのは、総入園者数の多い 11 月の無料入園者数が平成 26・27 年度に比べ実数・比率ともに増加していることである。このことは、日常的には来訪しない 65 歳以上の横浜市在住者の入園が増加したものと考えられ、横浜市域において紅葉や菊花展の名所としての三溪園の認知度・誘致力が上がっていることを示しているのかもしれない。

③ 外国人入園者数

平成 19～27 年度の外国人入園者数の推移を示したのが表 3 である。平成 19～22 年度において漸減あるいは横ば

表 3 外国人入園者数

年度	平成 19	平成 20	平成 21	平成 22	平成 23	平成 24	平成 25	平成 26	平成 27
外国人	18,240	19,903	16,706	16,545	10,438	17,607	23,537	27,347	34,620
対前年比 (%)	—	109.1	83.9	99.0	63.1	168.6	133.6	116.1	126.6
入園比率 (%)	4.0	4.1	3.6	4.1	3.0	4.3	6.2	6.5	7.8

い傾向であった外国人入園者数は、前年度末の東日本大震災の影響を受けた平成 23 年度に大きく落ち込んだが、平成 24 年度以降は着実に増加し、平成 27 年度には 34,620 人と震災前の平成 21・22 年度に比べても 2 倍以上の入園者数となっている。全入園者に占める比率も、平成 27 年度には 7.8% となり、比率においても震災以前の 2 倍前後の数値を示している。これは、いうまでもなく、ここ数年の訪日外国人数の急増に沿った事象である。留意すべきは、外国人入園者は就学以前の幼児を除き、ほぼ有料入園者であることである。

④ こども入園者数

こども入園者数、すなわちこども料金で入園する小学生の入園者数の推移を示したのが表 4 である。震災の影響から回復した平成 24 年度以降、入園者数は 17,000 人前後、入園者総数に対する比率では 4% 前後で推移している。一般的に静的鑑賞等に重きが置かれる庭園はこどもからの人気に欠ける傾向にあるが、三溪園は広大な敷地に動植物相の豊かな自然要素も備えており、保勝会によりこども向けの各種イベントも企画されていることから、一定の入園者数水準を保っている。こども入園者のうちの横浜市在住の実数・比率の統計は取られていないが、比較的多数にのぼるものと推測される。こうしたこども入園者は将来的に横浜市またはその近隣に在住する可能性も比較的高いと考えられることから、こども入園者の確保は将来的な三溪園ファンをつくる意味でも重要であろう。

2. 施設利用等

① ウェディング撮影件数（経年・月別）＜平成 23～28 年度＞

近年、ウェディングの一環としての撮影（ウェディング撮影）を庭園などの名勝地で行うことが全国的にも増加している。三溪園でも有料でこのウェディング撮影に対応しており、表 5 は平成 23～28 年度のその件数の推移を示したものである。震災直後の平成 23 年度に 228 件であったのが、翌年度に 526 件と約 230% になったのを皮切りに、平成 25 年度には 1,126 件、平成 28 年度には 1,980 件と急増している。一般論としては、短時間といえども一定の空間を占有するウェディング撮影に批判がないわけではないが、三溪園は敷地も広大であり、撮影スポットも多岐にわたることから、特に問題とはなっていない。ウェディング撮影は有料であるため収益面での貢献もあり、さらにここで撮影したカップルにとっての思い出の場所ともなる

表 4 こども入園者数

年度	平成 19	平成 20	平成 21	平成 22	平成 23	平成 24	平成 25	平成 26	平成 27
こども	13,493	14,947	13,879	11,431	12,656	17,316	16,543	16,682	17,688
入園比率	3.0	3.1	3.0	2.8	3.6	4.2	4.4	3.9	4.0

表 5 ウェディング撮影件数

年度	平成 23	平成 24	平成 25	平成 26	平成 27	平成 28
件数	228	526	1,126	1,693	1,807	1,980

という観点からも、十分な意義が認められる。

表 6 建物別利用状況

建物／年度	平成 23	平成 24	平成 25	平成 26	平成 27	計
白雲邸	46	41	43	57	44	231
月華殿	28	17	20	16	20	101
金毛窟	3	4	7	12	6	32
春草廬	5	7	5	5	1	23
蓮華院	29	25	22	25	18	119
臨春閣玄関	10	10	11	11	8	50
林洞庵	13	20	23	44	28	128
横笛庵	10	11	14	32	7	74
燈明寺本堂	22	26	47	51	19	165
その他	3	1	4	3	2	13
小計	169	162	196	256	153	936
鶴翔閣	232	236	232	218	251	1,169
小計	232	236	232	218	251	1,169
計	401	398	428	474	384	2,105

表 7 建物等貸出料金

単位：円

建物	一日 *	半日 **	構成 () は畳数
白雲邸	51,000	35,700	小応接 (6) 控室 (4.5) 談話室 (30) 配膳室 (8) 洗面所 (4.5) 一の間 (7) 二の間 (10) 衣裳の間 (6)
月華殿	33,000	23,100	桧扇の間 (12.5) 竹の間 (15) 水屋 (3・台目 6)
金毛窟	5,000	3,500	小間 (1・台目 1) 鎖の間 (2) 水屋 (1)
春草廬	27,000	18,900	広間 (変形 8) 小間 (3・台目 1) 水屋 (変形 5・台目 2)
蓮華院	20,000	14,000	広間 (6) 小間 (2 中板) 土間 (8) 水屋 (9)
臨春閣玄関	12,000	8,400	玄関 (38)
林洞庵	20,000	14,000	広間 (8) 小間 (4) 水屋 (3)
横笛庵	8,000	8,000	小間 (変形 6) 土間 (8.5)
燈明寺本堂	15,000	10,500	外陣 (51) 内陣 (24)
庭園	13,000	9,100	範囲を限定して 1 箇所ごとに料金
鶴翔閣 室等	4 時間 *** 一般利用	4 時間 *** 文化的利用	構成 () は畳数
鶴翔閣 楽室棟	50,000 <100,000> ****	45,000 <90,000>	広間 (30) 控室 (15) 主室 I (20) 主室 II (12.5) 主室 III (10)
鶴翔閣 茶の間棟	20,000 <40,000>	15,000 <30,000>	茶の間 I (8) 茶の間 II (10) 茶の間 III (10)
鶴翔 客間棟	20,000 <40,000>	20,000 <40,000>	客間 I (8) 客間 II (8) 客間 III (11)
鶴翔閣 前庭	30,000 <60,000>	30,000 <60,000>	芝生 850m ²

* 9:00～17:00

** 9:00～13:00 または 13:00～17:00

*** 9:00～13:00 または 13:00～17:00 または 17:00～19:00

**** <>内の料金は「商用利用の場合」および「土日祝日利用の場合」三溪園ホームページ＞施設貸出料金のご案内 <http://www.sankeien.or.jp/rental/fee.html> を一部省略して作成

② 建物別利用状況

三溪園では、園内にある古建築のうち国指定重要文化財の月華殿・春草廬・臨春閣・燈明寺本堂、市指定有形文化財の鶴翔閣・白雲邸、未指定の金毛窟・蓮華院・林洞庵・横笛庵を茶会・句会などの文化的催事に供する施設として有料で貸出している（臨春閣は玄関のみ）。このうち、鶴翔閣は文化的催事以外の会食・懇親会・パーティー、さらに貸切ウェディングなどの利用にも対応している。表6はそうした貸出建物の平成23～27年度の利用状況、表7はその利用料金である。

鶴翔閣は施設規模が大きく、貸出目的も多様であることから利用件数では年間220～250件前後と他を大きく引き離し、利用料金が比較的高額であることから収益面での貢献も大きい。他の古建築では、個別に見ると比較的規模の大きい白雲邸の利用が多く、燈明寺本堂・林洞庵・蓮華院・月華殿などがこれに続く。利用目的としては茶会・香会が最も多く、三溪園の施設貸出が伝統文化継承の場としての機能を果たしており、このことの意義もまた大きい。なお、全体の利用件数を見ると、平成27年度は153件と前年度比60%にとどまっているが、これは展示・撮影等の利用件数が減少したためである。

古建築は、本来の使われ方を大きく逸脱せず、なおかつ建物保存上の過重使用にならない範囲においては、積極的に活用する動的な在り方が保存の観点からも望ましく、収益上の利点も含め、現在の三溪園の状況は高く評価できよう。

③ 望塔亭立礼茶席利用

望塔亭は記念館に併設された立礼の茶室で、その利用者数の推移を示したのが表8である。表千家・裏千家・江戸千家の各支部の協力により、点てられた茶が運ばれるのではなく、お点前を披露してもらえるのが大きな特徴であり、正座の必要のない立礼であることから外国人も含め気軽に利用できることが多数の利用につながっていると考えられる。外国人については、平成27・28年度の利用者数の急増が目される。平成27年度では、外国人入園者34,620人のうち3,427人が望塔亭での立礼茶席を利用しており、その利用率はほぼ10%であり、今後もその増加が期待される。

IV. 三溪園における行事の現状等

三溪園は入園者の多様なニーズに応え、あるいは新たなニーズを掘り起こすべく、各種行事を積極的に企画・展開している。平成27年度三溪園催事・展覧会開催状況の概略を取りまとめると、表9のようになる。行事のカテゴリーは、「建物公開」「季節の花・風物を楽しむ」「展示」「夜景・ライトアップ」「体験・講座・講演など」「音楽・芸術鑑賞」に区分されており、広大な敷地に文化財建造物を含む古建築を多く有し、多彩な植生・植栽に彩られ、美術品展示施設（三溪記念館）を備えるといった三溪園の特質を活かした事業展開と

なっていることが窺える。なお、表10は、平成29年（平成29年1～12月）の行事スケジュールであるが、一部に改廃はあるものの基本的には平成27年度の行事企画を踏襲したものになっている。

これらの行事のうち植物や昆虫などの観賞に焦点をあてた「季節の花・風物を楽しむ」行事には、「観桜の夕べ」「さくらそう展」「さつき盆栽展」「蛍の夕べ」「早朝観蓮会」「朝顔展」「観月会」「菊花展」「観梅会」があり、また古建築公開も「新緑」と「紅葉」を背景にした行事企画となっている。さらに、「三溪園で過ごすお正月」「初天神」「合掌造りでお雛様」「本牧かばちゃ祭りへの参加」も和洋の伝統的な季節行事等に即した行事であり、三溪園の行事は季節感を軸に企画されていることがわかる。また、時間外開園を伴う行事としては、夜間開園のもとに行う「観桜の夕べ」「蛍の夕べ」「観月会」と早朝開園での「早朝観蓮会」がある。

ところで、表2に示された平成26・27・28年度の三溪園の月別入園者数を見ると、桜の開花季である3・4月と紅葉の季節である11月にピークがあり、夏季の7・8月と冬季の1月は大きく落ち込む。こうした傾向は公開されている庭園一般に見られる傾向であり、多客期と少客期の落差を小さくし、年間を通じて入園者数をいかに平準化するかが共通の課題である。面積が狭く行事等のヴァリエーションが限定されるような庭園とは違い、三溪園の場合は面積が広大で、古建築を含めて多様な要素で構成されていることを考え合わせると、少客期に集客を見込める行事の企画を検討する必要がある。例えば古建築公開を多客期である春・秋ではなく夏季や冬季に実施する、あるいは記念館で集客力の見込める特別展を少客期に重点的に実施するといったことである。また、「夜景ライトアップ」系の夜間行事の実施には照明設備・警備要員等の経費がかかることから、敷地が広大で困難な面もあるが、通常開園時間の入園者との入替制も検討案件のひとつであろう。

V. 三溪園の活用の在り方の現状等

1. 市民の公共庭園としての三溪園

前述のとおり、三溪園は、明治39年に原三溪が外苑を造営した当初から一般公開しており、その伝統は太平洋戦争後に保勝会が運営を担うようになってからも一貫して保たれてきた。三溪園は都市公園としての位置付けは持たないものの、広大な敷地を持つとともに横浜市では稀少な文化財庭園とし

表8 望塔亭呈茶席利用者数

種別／年度	平成19	平成20	平成21	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	平成27	平成28
一般等*	29,599	33,047	41,998	40,157	30,787	31,830	27,922	30,177	33,965	33,526
体験	1,155	984	1,047	1,211	1,151	1,272	1,363	1,685	2,154	1,957
外国人	2,298	1,804	2,308	2,586	1,635	2,590	2,772	2,703	3,427	4,814
計	33,052	35,835	45,353	43,954	33,573	35,692	32,057	34,565	39,546	40,297

* 一般利用者（国内）のほか招待券・公用等を含む

表 9 平成 27 年度三溪園催事・展覧会開催状況

行 事	期 間	カテゴリー*	期間中の入園者（入） 又は行事参加者（参）	備 考
観桜の夕べ	3月28日～4月5日	季・夜	（入）10,720	～午後8時30分。桜のライトアップ
さくらそう展	4月16日～22日	季・展	（入）6,242	共催：横浜三溪園皐月会横浜さくらそう会
新緑の古建築公開―臨 春閣・蓮華院	4月29日～5月6日	建・季	（入）19,243	聴秋閣奥の溪谷遊歩道も開放
さつき盆栽展	5月24日～6月7日	季・展	（入）16,775	共催：横浜三溪園皐月会
蛍の夕べ	6月6日～6月14日	夜・体	（入）11,904	～午後8時30分
早朝観蓮会	7月18日～8月9日の 土・日・祝	季・体	（入）6,383	午前6時～。蓮の葉シャワー・蓮茎の糸取り体験
朝顔展	7月27日～31日	季・展	（入）2,730	共催：横浜朝顔会
My 茶碗で、My お茶会	7月23日8月16日	体	（参）49	共催：横浜市作陶センター 7月23日：作陶 8月16日：お点前体験
三溪園で楽しむ夏休み― 横浜市指定有形文化財 鶴翔閣公開	8月11日～16日	建・体	（入）5,953	鶴翔閣公開。
親子で楽しむザリガニ釣り	8月17日～31日	体	（参）2,437	兼ザリガニ駆除
お庭だけじゃない！三溪園 を知ろう	8月18日～19日	体	（参）135	横浜市教育委員会「夏休みこどもアドベンチャー」参加の小中学生対象企画
観月会	9月25日～29日	季・夜・音	—	～午後8時30分。建造物ライトアップ建造物ライトアップ。臨春閣での演奏・舞踏など
フォトコンテスト入賞作品 展	10月3日～12月15日	展	（入）128,114	三溪記念館
本牧かぼちゃ祭りへの参 加	10月24日	体	（仮装参加者）644	近隣住民対応。仮装参加者は入園料免除
菊花展	10月26日～11月23日	季・展	（入）51,193	横浜菊花会主催
紅葉の古建築公開―聴 秋閣・林洞庵	11月21日～12月13日	建・季	（入）63,604	聴秋閣の溪谷遊歩道も開放
クラシックコンサート	12月23日	音	（会場入場者）233	クラシック・ヨコハマ参加企画
三溪園で過ごすお正月 （鶴翔閣内部特別公開）	1月1日～3日	建・音	（会場入場者）4,344	1日：箏曲演奏、2日包丁式、3日和妻
盆栽展	1月11日～25日	花・展	（入）8,319	共催：横浜三溪園皐月会
初天神	1月25日	花・体	（参拝者）150	合格祈願鉛筆配布
高窓宮妃殿下写真展	2月25日～3月2日	展	（入）13,643	フォト・ヨコハマ 2016 との連携企画
観梅会	2月13日～3月6日	季・体・音	（入）35,282	関連の催しとして、梅盆栽展、もちつき、猿まわしなど
合掌造りでみるお雛様	2月13日～3月6日	展	（入）35,282	「横浜ひなめぐり」3施設連携企画
俳句大会	3月27日	体	（参）93	
俳句展	3月16日～5月27日	展	—	協力：横浜俳話会

* カテゴリーのうち、「建」は建物公開、「季」は季節の花・風物を楽しむ、「展」は展示、「夜」は夜景・ライトアップ、「体」は体験・講座・講演など、「音」は音楽・芸術鑑賞

表 10 平成 29 年三溪園イベントスケジュール

行 事	期 間	カテゴリー*	備 考
開園 110 周年記念企画展「会 所—三溪園の「建物と花—エバ レットブラウン湿板光画展」	2016 年 12 月 20 日～ 3 月 12 日	展	
三溪園で過ごすお正月—横浜市 指定有形文化財 鶴翔閣公開	1 月 1 日～ 3 日	建・音	1 日：箏曲演奏、2 日包丁式、3 日和妻
盆栽展	1 月 8 日～ 22 日	花・展	共催：横浜三溪園皐月会
初天神	01 月 25 日	花・体	
観梅会	2 月 11 日～ 3 月 5 日	季・体・音	関連の催しとして、梅盆栽展、俳句大会、猿まわし
俳句展	3 月 16 日～ 5 月 24 日	展	協力：横浜俳話会
観桜の夕べ	3 月 25 日～ 4 月 2 日	季・夜	～午後 8 時 30 分。建造物ライトアップ
さくらそう展	4 月 13 日～ 19 日	季・展	共催：横浜三溪園皐月会横浜さくらそう会
新緑の古建築公開—春草廬・ 聴秋閣	4 月 29 日～ 5 月 7 日	建・季	聴秋閣奥の溪谷遊歩道も開放
さつき盆栽展	5 月 14 日～ 5 月 28 日	季・展	共催：横浜三溪園皐月会
螢の夕べ	5 月 22 日～ 6 月 2 日	建・夜・体	旧燈明寺本堂内部開放
花しょうぶ展	6 月 6 日～ 11 日	季・展	共催：日本花菖蒲協会
早朝観蓮会	7 月 15 日～ 8 月 6 日の土・日・祝	季・体	午前 6 時～。蓮の葉シャワー・蓮茎の糸取り体験
朝顔展	7 月 27 日～ 31 日	季・展	共催：横浜朝顔会
三溪園で楽しむ夏休み—横浜市 指定有形文化財 鶴翔閣公開	8 月 11 日～ 16 日	建・体	
フォトコンテスト入賞作品展	9 月 30 日～ 12 月 13 日	展	三溪記念館
観月会	10 月 4 日～ 9 日	季・夜・音	～午後 8 時 30 分。建造物ライトアップ建造物ライトアップ。臨春閣での演奏・舞踏など
菊花展	10 月 26 日～ 11 月 23 日	季・展	
紅葉の古建築公開—聴秋閣・ 春草廬	11 月 18 日～ 12 月 10 日	建・季	聴秋閣の溪谷遊歩道も開放
三溪園大茶会	11 月 21 日～ 22 日	体	チケット前売り

* カテゴリーのうち、「建」は建物公開、「季」は季節の花・風物を楽しむ、「展」は展示、「夜」は夜景・ライトアップ、「体」は体験・講座・講演など、「音」は音楽・芸術鑑賞

表11 三溪園への来訪実態（平成 26 年）

	全国	横浜市内	神奈川県	首都圏
認知率	43.1	89.8	80.6	61.7
来訪率	11.7	54.6	35.4	21
推奨意向率	79.7	80.8	78	79.4
来訪意向率	26.9	47.8	36.2	27.8

横浜市文化観光局横浜魅力づくり室『横浜市に関する意識・生活行動実態調査—平成 26 年度—』から作成。この調査に言う認知率とは「ここ 1 年以内に行ったことがある」「1 年以上前に行ったことがある」「見聞きしてどんなところか知っている」「どのあたりにあるか知っている」と回答した率、「来訪率」とは「ここ 1 年以内に行ったことがある」「1 年以上前に行ったことがある」と回答した率、推奨意向率とは来訪した人が「ぜひ薦めたい」「薦めたい」と回答した率、「来訪意向率」とは来訪していない人が「ぜひ行ってみたい」「行ってみたい」と回答した率。「全国」は横浜市・神奈川県・首都圏を含む全国を対象としており、サンプル数の特に多い横浜市や多い神奈川県・首都圏を含んだ統計となることによるバイアスがかかっていることには留意が必要である。

て公開されており、市民が利用する文化的な公共庭園としての存在感は横浜市のなかでも極めて大きいⁱⁱ。入園者統計のなかで横浜市民の占める割合は明らかではないが、平成 28 年度において入園者 47.4 万人の 3 割近くにのぼる無料入園者の多数を占めるのは 65 歳以上の横浜市在住者と考えられることから、その他の年代も含めて入園者における横浜市民の割合はかなり高いものと推定される。ちなみに、表 11 に示すように横浜市文化観光局による三溪園来訪実態調査ⁱⁱⁱによれば、平成 26 年に実施した調査における横浜市在住者（サンプル数 1,072 人）の三溪園の認知度は 89.8%、来訪率は 54.6%、推奨意向率は 80.8%、来訪意向率は 47.8%となっている。高い認知度とともに高い推奨意向率が注目される一方で、来訪率と来訪意向率が 50%内外であり、これらの比率をさらに高めることが今後の課題であろう。いずれにせよ、三溪

園の入園者の多数を占めるのが横浜市民であることは確かであり、地域に根差した文化財庭園として年代を問わず横浜市民のリピーター化をさらに促進することが強く求められる。

2. 地域外来訪者の観光資源としての三溪園

① 国内他地域からの来訪者

前述のとおり、日本人入園者のうち横浜市民と国内他地域からの来訪者の区分に関する統計はないが、平成 26 年調査における横浜市を除く神奈川県内在住者（横浜市内在住者を除く：サンプル数 472 人）の三溪園の認知度は 80.6%、来訪率は 35.4%、推奨意向率は 78.0%、来訪意向率は 36.2%で、認知度と推奨意向率は横浜市内住者に近い数値を示す一方で来訪率・来訪意向率は横浜市内住者の 7 割前後とやや低い数値になっている。さらに、首都圏（東京都・千葉県・埼玉県：サンプル数 1,351 人）では、認知度は 61.7%、来訪率は 21.0%、推奨意向率は 79.4%、来訪意向率は 27.8%となっており、それなりに高い認知度とここでも高い推奨意向率が注目される。一方、全国（サンプル数 5,784 人）の統計はサンプル数の特に多い横浜市のほか相当多い神奈川県・首都圏を含むことからバイアスがかかったものとなるが、推奨意向率に関して言えば高い数値を示すことは確かである。

三溪園の全般的な推奨意向率の高さは来訪時の満足度が高いことを示しており、観光資源としてのポテンシャルの高さを示すものに他ならない。そのポテンシャルを実際の入園者増加に繋ぐために求められるのは、各種媒体を用いた知名度や内容周知の向上に資する広報活動のさらなる充実であろう。

② 外国人来訪者

訪日外国人数はここ数年急増し、平成 27 年には 1973 万 7 千人、平成 28 年には 2403 万 9 千人を数える^{iv}。こうした訪日外国人のかかなりの部分を占めるのは観光を目的とする観光者であるが、彼らが利用する情報源として近年重要な位置を占めるのがウェブサイトや SNS である。ここでは、訪日外国人観光者向けの代表的なウェブサイトである「ジャパンガイド（<http://www.japan-guide.com/>）」と「ミシュラントラベルージャパントラベルガイド（<https://travelguide.michelin.com/asia/japan>）」での三溪園の取り扱いを確認するとともに、世界最大の閲覧数をもつ旅行関連サイトであるトリップアドバイザーにおける三溪園についての投稿についても触れておきたい。

ジャパンガイドはインターネット上の訪日外国人向け日本情報ポータルサイトで、日本の旅行情報や生活・文化情報を内容とし、ウェブサイト訪問者は毎月 180 万人に上るという^v。「ジャパンガイド」のトップページに掲載された 10 項目の INTERESTS（興味・関心の対象）には、「Temples（寺院）」「Castles（城跡）」「Onsen（温泉）」などと並んで「Gardens（庭園）」の項目がある。「Gardens（庭園）」のページを開くと、日本の庭園の歴史等に関するごく簡単な説明^{vi}とともに、ジャパンガイドの作成者と閲覧者が選んだ庭園が紹介されている。

2017 年 8 月 16 日のアクセス時点で、その第 1 位は兼六園（金沢市）で、第 2 位が足立美術館庭園（島根県）、第 3 位が桂離宮（京都市）と続き、三溪園は第 9 位となっている。掲載されている 10 位以内を見ると、鑑賞に特化した現代庭園である第 2 位の足立美術館を除けば、古代から近世にかけて造営された京都の寺院・離宮庭園および各地の大名庭園が並び、近代庭園としてランクインしているのは三溪園だけである。三溪園の説明としては、日本各地から古建築を移築した広大な庭園で、大きな池や溪流や季節の花や園路の様子は京都の庭園を思わせるとしたうえで、三溪園が築造された 1904 年（正しくは 1906 年：筆者注）から公開されてきたことにも触れている^{vii}。東京に近い横浜という立地もその順位にある程度寄与しているのであろうが、広大な敷地に池や溪流を築造するとともに茶室や古建築を配置した回遊式庭園であることが高評価の源泉となっていることがわかる。

「ミシュラントラベルージャパントラベルガイド」は、フランスのタイヤメーカーであるミシュラン社の日本観光関連サイトである。そこに掲載される日本の観光スポットは、「興味深い（interesting）」162 件、「お勧め（recommended）」176 件、「特にお勧め（highly recommended）」51 件の計 489 件である^{viii}。そのなかで、三溪園は「お勧め（recommended）」に含まれている。三溪園に関する説明では、175,000m²の広大な敷地は内苑・外苑の二つの区画に分かれ、外苑には旧燈明寺三重塔や矢筈原家住宅、内苑には江戸時代初期の楼閣（聴秋閣）などが移築されていることを述べたうえで、年間 50 万人の入園者を惹きつけるのは日本らしさと香気にあふれた風景を備えた庭園自体であるとする^{ix}。このサイトの中で、庭園として「特にお勧め（highly recommended）」に含まれるのは、金閣寺・桂離宮など京都の 5 か所^xと、大名庭園あるいはそれに由来する栗林公園・岡山後楽園・兼六園・新宿御苑の計 9 か所であり、三溪園はこれらに次ぐものとしての位置付けがなされているわけである。

トリップアドバイザーの三溪園口コミサイトを見ると、842 件の口コミが掲載されている^{xi}。その言語別の内訳は、日本語 507 件・英語 262 件・中国語（繁）42 件・中国語（簡）42 件・ロシア語 12 件・ドイツ語 8 件・フランス語 7 件・イタリア語 6 件・スペイン語 6 件・オランダ語 5 件・ポルトガル語 5 件・韓国語 5 件などで、外国語率は 39.8%となる。トリップアドバイザーの 口コミ評価は、「とても良い」「良い」「普通」「悪い」「とても悪い」の 5 段階である。三溪園に関する投稿全体では「とても良い」437 件・「良い」337 件・「普通」63 件だが、日本語投稿では各々 208・248・47 件、外国語では各々 229・89・16 件となり、外国人による評価の高さが目立つ。外国人による評価が高いのは、観光者としての非日常性の高さによる場所が大きいのであろうが、「とても良いが」68.6%、「とても良い」と「良い」を合わせると 95.2%という数値は、三溪園が期待を裏切らない満足度を外国人観光者に与えていること

を示している。

このように、三溪園は外国人観光者の来訪地として高い評価とポテンシャルを持つ。ただし、東京都の旧浜離宮庭園などに比べると外国人入園者の実数や比率が少ないことには留意が必要であろう^{xii}。外国人の評価を来訪に繋いでいくための方策の一つとして、アクセスに関する情報の充実が考えられるかもしれない。

Ⅵ. 今後の活用と運営の展望

以上に見てきた通り、現状においても、三溪園は市民の公共庭園として、また内外の観光者の訪れる文化観光資源として活用され、高い評価と人気を得ているが、入園者の伸び悩みと無料入園者の増加による収入の低迷等により財務面等での課題も顕在化している。こうしたなか、三溪園の今後の活用の方向性としては、原則として従来どおりの「市民の公共庭園」「文化観光資源」という二つの側面で考えながら、円滑かつ持続的な運営のために必要な方策を組み入れていくことが求められよう。

「市民の公共庭園」の観点では、四季折々の快適な空間を提供するという側面を維持しつつも、その面だけでは有料庭園としての支持は受けにくい。文化財建造物を中心とした古建築を包含し、近代庭園としても高い文化的価値を有するという点をさらに周知する必要がある。三溪園の文化的価値についての広報は従前から取り組まれているが、ターゲットを若い世代に置いた広報の促進も考えてよいだろう。若い世代に受け入れられやすい SNS による積極的な情報発信のほか、市内の小・中・高等学校さらには横浜市所在の大学といった教育機関において、実際の来訪を前提とした文化財（文化遺産）学習プログラムのメニューに三溪園を組み込んでもらうこと等が考えられる。また、こうした文化財（文化遺産）学習プログラムのなかで児童生徒にパンフレット等を配布し、家庭に持ち帰らせることも一つの方策かもしれない。

また、「文化観光資源」の観点からは、幕末開港以降の近代都市としてのイメージの強い横浜市にありながら移築とはいえ中近世の文化財建造物が複数所在することをアピールするとともに、三溪が世界遺産に登録された富岡製糸場を一時経営していたといった情報も強調してよいかもしれない。また、従来行われている行事も含め、その存在と魅力の全国的な周知を一層図っていくことが望まれよう。こうした広報については、様々な媒体を駆使することが求められることは言うまでもない。また、外国人入園者のさらなる増加を期すことも含め、アクセスの改善やアクセス情報の十分な提供も一つの留意点であろう。さらに、一般的に観光においては「食」が一つの誘客要素となることから、現在園内にある飲食施設の一層の魅力向上を図るとともに食をテーマとした有料イベントの開催なども検討対象となろう。

次に、財務面・運営面から三溪園を見ると、広大な面積

の緑地を含む文化財庭園としての維持管理・修理等に加え文化財建造物の維持管理・修理等にも多額の経費を要することから、収入確保が強く求められる。横浜市民の共有の財産で、シティセールスにも大きく貢献するといった位置付けにより横浜市からの補助金を受けており、また文化財としての修理等については国・神奈川県から一定の補助金は交付されるが、当然ながら自己資金も必要である。現状では、保勝会の様々な努力にもかかわらず入園者数が最盛期に比べると相当落ち込み、とりわけ無料入園者数が急激に増加する一方で有料入園者が低迷している点は、保勝会の三溪園運営に要する収入確保に大きな影響を及ぼしている。建物有料貸出等の収入確保の取り組み等は一の効果もあげているものの、収入確保の一つの柱である入園料収入の増収は喫緊の課題であることから、保勝会は平成 29 年 7 月 1 日から入園料の改定に踏み切った。こども（小学生）は 200 円に据え置いたうえで、大人を従来の 500 円を 700 円に値上げしたほか、65 歳以上の横浜市在住者についてはこれまでの無料から 200 円とした。この値上げの結果としての入園者数の増減と収益の増減については今後の推移を見守るほかないが、かつて筆者が東京都所管文化財庭園に関しても指摘したとおり日本の文化財庭園の入園料は欧州諸国のうち庭園の入園料を取る事例の多い英国・イタリア等と比して相当に安価であり^{xiii}、今回程度の値上げはむしろ望ましいものとする。ただし、上述の若い世代の来訪を促進するうえで、大人料金とこども料金との中間価格帯での中学生・高校生料金の設定が望まれる。

一方、日常的な運営面では、広大な敷地と多様な構成要素を活かして企画される様々な事業は高く評価できるが、入園者の増加を図る観点で少客期である夏・冬の入園者増を意識した事業時期の設定を検討してもよいだろう。また、「ガイドインフォメーション」「矢筈原家合掌造り住宅の管理・運営」「庭園の保守管理」といったボランティア活動が盛んに行われており、三溪園とボランティアとの互恵的な関係が築かれている点は高く評価できる。さらに、同好グループによる「動植物の調査・記録」「自然観察会」「茶道研究」「英会話ガイド」といった活動の場とされていることも、地域等と三溪園の関係を深めるという観点から評価できる。こうしたボランティア・同好グループ活動については、今後も発展的に継続していくことが望まれる。

最後に、三溪園の活用と運営を展望するうえで、イコモス（International Committee of Monuments and Sites）が歴史的庭園の保存等に関する憲章として 1982 年に採択したフィレンツェ憲章（The Florence Charter—Historic Gardens）^{xiv}との関係に触れておきたい。フィレンツェ憲章は、歴史的庭園を植物が重要な構成要素となる「生きている記念物」と位置付け、その保護について「歴史的庭園は適切な環境のもとに保護されなければならない。生態系の均衡を危機にさらすような物理的環境のあらゆる改変は禁止されるべきである。」（第 14 条）

としたうえで、社会におけるその在り方については「歴史的庭園への関心は、あらゆる活動によって刺激されるべきであろう。その活動とは、科学的研究の促進、国際的交流、情報の流布、公衆向けの刊行物やその普及活動、自然と歴史的庭園に当然与えられるべき敬意を促すためのマスメディアの適切な抑制と利用によって、公衆の来訪の奨励など、遺産としての価値を際立たせたり、知識、鑑賞を活かす活動である。」(第25条)と述べている。三溪園の保存ないし活用と運営は、これまでもこのフイレんツェ憲章の趣旨に沿ったものであり、今後ともこの原点に立脚しながら、時代や社会の変化に対応しつつ持続的に行われることが肝要であろう。

謝辞 本稿作成にあたっては公益財団法人三溪園保勝会から資料の提供を受けるとともに、吉川利一事業課長から直接、説明いただいた。記して、感謝申し上げます。

*本稿は、科学研究費基盤(B)「歴史と現状から見た庭園の観光資源としての可能性に関する研究—欧州との比較から」<課題番号26283021>の研究成果の一部である。

参考文献

- ・『三溪園100周年 原三溪の描いた風景』財団法人三溪園保勝会編、神奈川新聞社発行、2006年
- ・文化庁ホームページ・国指定文化財データベース「三溪園」(原文作成は筆者<執筆時・文化庁文化財部記念物課主任文化財調査官>) <http://kunishitei.bunka.go.jp/bsys/maindetails.asp>

注

- i 昭和28年の財団法人設立にあたっては、出資金の40%にあたる200千円を横浜市が出資。
- ii 横浜市の都市公園数・面積は、緑地及び緑道を含めて2671件・18,293,839㎡であり、三溪園の面積17.5万㎡は横浜市の都市公園全体の約1%に相当する(「都市公園数・面積一覧表(H29.3.31現在)」『横浜市の都市公園データ集』<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/data/kouen/> 2017年9月10日アクセス)。また、三溪園の入園者数47.4万人(2016年度)は、人気の高い動物園と比較しても、よこはま動物園ズーラシアの121.6万人(2015年度)・野毛山動物園の109.5万人(同)には及ばないものの、金沢動物園の28.7万人(同)を上回る(『平成27年度横浜市動物園レポート』<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/dousyoku/etc/27zooreport.pdf> 2017年9月10日アクセス)。ちなみに、東京都の文化財庭園と比較すると、六義園の82.1万人(2015年度)、旧浜離宮庭園の73.8万人(同)には及ばないものの、小石川後楽園の32.9万人(同)や旧古河庭園の28.3万人(同)などを上回る。
- iii 『横浜に関する意識・生活行動実態調査—平成26年度—』横浜市文化観光局・横浜魅力づくり室企画課。平成26年(2014)の調査は、同年7月24～26日に全国47都道府県の16～79歳の一般個人男女を対象にインターネット調査で行われた。
- iv 日本政府観光局(JNTO)報道発表資料http://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/data_info_listing/pdf/170117_monthly.pdf#search=%27%E8%A8%AA%E6%97%A5%E5%A4%96%E5%9B%BD%E4%BA%BA%E6%97%85%E8%A1%8C%E8%80%85%E6%95%B0%27 2017年9月13日アクセス

- v ジャパンガイド http://www.japan-guide.co.jp/about_jg/ 2017年8月16日アクセス
- vi Garden design is an important Japanese art form that has been refined for more than 1000 years. Gardens have evolved into a variety of styles with different purposes, including strolling gardens for the recreation of Edo Period lords and dry stone gardens for the religious use by Zen monks. Great gardens can be found throughout Japan, with particularly many in the former capital of Kyoto.
- vii Sankeien (三溪園) is a spacious Japanese style garden in southern Yokohama which exhibits a number of historic buildings from across Japan. There is a pond, small rivers, flowers and wonderful scrolling trails that make you think you are in Kyoto rather than Yokohama. The garden was built by Hara Sankei and opened to the public in 1904. Among the historic buildings exhibited in the park are an elegant daimyo (feudal lord) residence, several tea houses and the main hall and three storied pagoda of Kyoto's old Tomyoji Temple.
- viii ミシュラントラベル—ジャパントラベルガイドのウェブサイト <https://travelguide.michelin.com/asia/japan> 2017年8月17日アクセス
- ix The Sankei-en, a traditional Japanese-style garden which covers 175 000m², is composed of two different parts: the outer garden, with features including a three-storey pagoda imported from Kyoto's Tomyoji Temple (1457) and a traditional house from the Hida region; and the inner garden with its remarkable pavilion dating from the early Edo period. But it is the garden itself, with its evocative and fragrant vistas, rather than the buildings within it that attracts over 500 000 visitors a year. Best visited early in the morning.
- x 大徳寺は大仙院・高桐院などを含む複合体として一つに数えられる
- xi トリップアドバイザーのウェブサイト https://www.tripadvisor.jp/Attraction_Review-g298173-d320017-Reviews-Sankeien_Gardens-Yokohama_Kanagawa_Prefecture_Kanto.html 2017年8月17日アクセス
- xii 旧浜離宮庭園の平成27年度の入園者総数は738,003人。うち外国語パンフレット配布数から推定した外国人入園者数は135,340人で、入園者総数の18.34%を占める。
- xiii 小野健吉「東京都所管文化財庭園の観光を含めた活用の展望」『観光学』16号、25-38頁、2017。なお、欧州諸国のなかでもドイツ・オーストリア等では宮殿などにおいて宮殿建物への入場料は徴収するものの、庭園部分への入園料は課さないところが多い。
- xiv 文化庁文化財部記念物課監修『史跡等整備のてびき：保存と活用のために』資料編263-267頁、同成社、2005